

2022年5月12日

学 校 長 様  
図書館担当者様

大阪私立中学校・高等学校図書館研究会  
会 長 瀧 英 次  
(同志社香里中学校・高等学校長)

大阪私立中学校・高等学校図書館研究会  
令和4年度講演会のご案内  
(講演会は会場・オンライン 同時開催)

新緑の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
平素は学校図書館教育ならびに本研究会の活動にご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。  
さて、下記の要領で令和4年度講演会を開催いたします。関係教職員の出張につきまして格別のご配慮を賜りますようお願いいたします。校務等ご多忙とは存じますが、ぜひご出席いただきたくご案内申し上げます。

記

日 時 令和4年6月3日(金) 午後2時30分～40分 講演会受付  
※待機場所がございませんので、この時間帯にお越しください。  
午後2時40分～ 講演  
午後4時40分 終了予定

会 場 桃山学院同窓会館(カンタベリー記念館)3階  
「カンタベリー・ホール」  
〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町3-1-64(裏面参照)

会場付近の地図



コロナ感染拡大防止のため、会場の人数上限を148名とします。  
申込み先着順で会場参加希望者が上限に達した場合はZoomでの参加となります。  
ミーティングID・パスワードは事前にメールで連絡します。  
講演会の前に私立中高図書館研究会の総会があるため、私立中高の参加者で人数が上限に達する場合があります。  
※新型コロナウイルスの感染状況によっては、会場での開催を中止する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

講 演 『言葉の海を渡る船—大辞林ほか国語辞典の編集現場から—』  
山本康一氏(株式会社三省堂 辞書出版部 部長/『大辞林』編集部編集長)

言葉は、人が思考し、社会を維持するために必須の道具であり、また文化・伝統を保持し伝えて行くとともに、変転してやまない社会に対応して常に揺れ動いて行くものでもあります。その言葉についての書物である辞書は、日本では古く上代から作られてきましたが、歴史的にその役割と対象読者そしてその内容は変化と広がりを見せてきました。辞書の歴史を振り返りつつ、また、現代において辞書が果たす役割、そして辞書に求められるものは何か、それらの課題のもとに、どのような辞書が存在し、どのように作られ、またどういふ状況にあるのかなど、国語辞書の諸問題を『大辞林』他個別辞書の編集方針・内容もまじえて解説します。

**申込方法** 5月26日(木)までに申込みフォームからお申し込みください。

申込みフォームQRコード



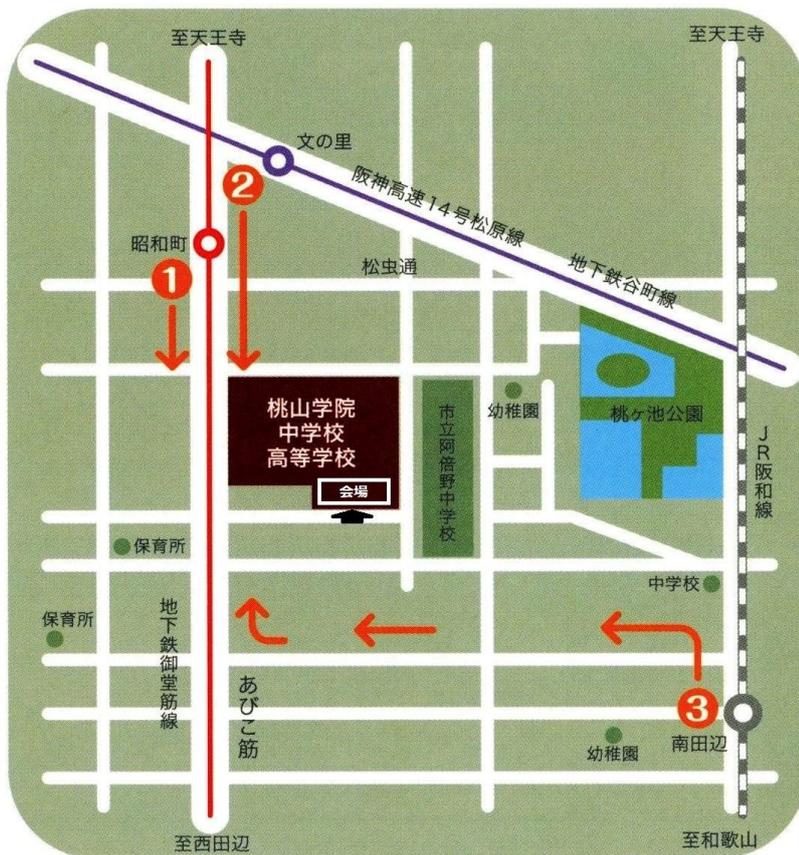
QRコードが読み込めない場合は以下にメールでご連絡ください。

<連絡先・お問い合わせ先>

大阪私立中学校・高等学校図書館研究会事務局  
同志社香里中学校・高等学校図書館 河村麻紀  
〒572-8585 寝屋川市三井南町 15-1  
FAX : 072-834-3750  
E-mail : [osakashigakulibrary@gmail.com](mailto:osakashigakulibrary@gmail.com)  
※お問い合わせは、必ずメールでお願いいたします。

<桃山学院同窓会館（カンタベリー記念館）へのアクセス>

〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町 3-1-64



- ① 地下鉄御堂筋線 昭和町駅 3号出口 南へ徒歩約5分
- ② 地下鉄谷町線 文の里駅 4号出口 南へ徒歩約8分
- ③ JR 阪和線 南田辺駅 北西へ徒歩約10分

※車での来校はできませんので公共交通機関をご利用ください